

平成27年10月11日
多職種協働による在宅チーム医療のための
地域リーダー研修会
事例（褥瘡）

筑波メディカルセンター病院
在宅診療科 鈴木将玄
筑波メディカルセンター
訪問看護ふれあい 伊東香

事例

- 92歳 女性 要介護4
- 診断名：変形性関節症 認知症 緑内障
右踵部、左背部褥瘡（Ⅲ度）
- 受診状況：近くの開業医がかかりつけ
定期的な通院なし
定時薬の服用なし
風邪を引いたときなどに受診する
- 家族構成：長男夫婦との3人暮らし
- 主介護者：長男嫁 難聴で補聴器使用

事例

- 介護保険サービス利用状況
 - デイサービス：週2回
 - ショートステイ：必要時（最低でも1週間/月）
 - 福祉用具貸与：介護用ベッド、体圧分散マット
手すり、車いす、スロープ
 - * 褥瘡ができてからエアマットに変更
- 日常生活動作：全面的な介助が必要
- 寝ている時間も多くなり食事摂取量は減っている

訪問看護導入まで

- デイサービスとショートステイを利用しながら在宅で療養してきた。
- デイサービス利用時、右踵部と左背部に褥瘡が発生しており、職員からの促しで皮膚科を受診した。
右踵部は黒色化しておりデブリードマン実施された。
イソジンシュガーパスタが処方され、家族は毎日処置するよう説明を受けて帰宅した。
- 翌日～(予定されていた)ショートステイを2週間利用した。
- 担当ケアマネジャーが、在宅での褥瘡の処置と全身状態のフォローが必要であるとアセスメントした。
ショートステイ利用後、訪問診療と訪問看護導入となる。

初回訪問時の創部の状況

(右踵部)



(左背部)

←足側

→頭側



- * どちらもガーゼがずれて創部が保護されていない
- * 寝具や衣類は浸出液や薬剤で汚れている

初回訪問時の本人の様子

- 痛みはない
- 聞かれたこと以外、ほとんど発語はない
- 円背が強く身体は左側に傾きやすい
- 自力での食事摂取は難しい

考えてみましょう

- 家族は、どのようなことに困るでしょう？
- ケア方法にはどのような工夫が必要でしょう？
- 連携では、どのような工夫が必要でしょう？

※自分だったら、他の職種にどのような連携を
してほしいですか？

訪問看護の実際①

- 家族の言葉
 - 毎日傷を洗うよう言われたが、どう洗えば良いのかわからない。
 - これでいいのかわからない
 - 傷を見たり触るのは少し怖い

訪問看護の実際②

- 処置方法の検討(簡易的な方法、低コスト)
 - 石鹼を使用してよく洗淨する
 - 踵のガーゼ固定が難しいため母乳パッドを使用
- 訪問看護利用回数 of 検討
 - 週2回(ショートステイ利用中は休み)
- 家族への指導(具体的で無理のない方法)
 - 一緒にケアを行いながら洗い方や薬の量を説明する
 - 石鹼を使用せず微温湯のみで洗淨してもらう
 - 500mlのペットボトル1本分使用してもらう
 - 負担を考慮し臥床したままオムツ使用して洗う
 - 右↔仰臥位のポジショニングを実演しながら説明する

訪問看護の実際③

- 医師の指示を確認

→皮膚科:2~3週間ごとに受診

訪問診療:月2回 全身状態確認

* 褥瘡の処置については皮膚科の方針に従う。
踵部は母乳パッド、背部はガーゼでの保護可
となる。

訪問看護の実際④

- デイサービス、ショートステイ先との連携
→処置方法を統一するために画像を添付し、
具体的な情報提供に努める



↑

外用薬の使用量をわかりやすく



↑



↑

固定方法

その後の経過 ～1か月後～

2週間ショートステイ利用し毎日の洗浄と処置を継続。
イソジンシュガーパスタの使用を継続。



母乳パッドのズレはない



ガーゼのズレは軽度

その後の経過 ～2か月後～

この4週間ショートステイを利用していた。
訪問看護の利用なし。施設では毎日の処置を継続。
皮膚科受診で薬剤がアクトシン軟膏へ変更となる。

